



日程：2018年8月5日（日）

会場：広島県立総合体育館 グリーンアリーナ

参加：7生協61名（大人53名、子ども8名）※事務局含む

内訳：パルシステム東京11名、東都生協9名、
東京南部生協5名、東京ほくと医療生協6名、
東京保健生協15名、全労済東京推進本部12名、
東京都生協連3名



73年前のきのこ雲の下での出来事やその後の歴史、「ヒロシマ」の地だからこそ感じる被爆の実相を学ぶ場として、ピースアクション in ヒロシマが開催されました。夕方からは東京都生協連主催の「被爆者との交流」を行ない、被爆者の方から証言をお聴きし、夕食をとりながら参加者どうし交流を深めました。翌6日には、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願い平和祈念式典に参列しました。

虹のステージ

オープニングは、被爆ピアノによる演奏。原爆による壊滅的な状況の中で奇跡的に焼け残ったピアノが広島と長崎で少なくとも9台が確認されています。そのうちの1台「広島市かずこさんのピアノ」の演奏でした。その音色は、反戦・反核・平和の思いを聴く人に届けています。主催者あいさつに続いて、松井広島市長より核廃絶に向けた国際的な機運を高め取り組んでいくこと、「絶対悪」である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けたあいさつがありました。



演奏者：向井理佐美さん

●被曝の証言・伝承 虹のステージでの学習講演企画

箕牧智之さん（日本被団協代表理事・広島県被団協副理事長）による講演



みんなのひろば

全国の生協で行われている平和の活動紹介や西日本豪雨支援コーナー、安田女子大学書道部による大書パフォーマンスなど様々な企画が催されていました。



《原爆の絵》

広島市立基町高校「原爆の絵」展示

創造表現コースの生徒が被爆者の話を繰り返し聞いて想像し表現していきます。被害の実相を後世に伝え継承していくため被爆体験証言者と共同で取り組んでおり、現在126点が完成しています。

広島県立福山工業高校

生徒がコンピューターグラフィック（CG）やバーチャルリアリティ（VR）を用いて被爆前後の街並みの復元映像を作成。建物のキズや汚れまで再現され、生活感も感じられた映像となりました。



広島市の復元映像VR体験

フィナーレ・合唱



フィナーレは、「2018子ども平和会議」の取り組み紹介とアピール文の読み上げ、虹のひろば合唱団による平和のうたの合唱でした。

「被爆者との交流～被爆証言をお聴きする集い～」&交流会 広島YMCAにて

広島医療生協「原爆被害者の会」植松由紀子さんと綿崎直子さんのお二人からお話をお聴きしました。進行は、広島医療生協共立病院医療福祉相談室の寺尾花菜さんと山地恭子さんに協力していただきました。植松さんは手製の小道具を用いて、綿崎さんは当日の様子を絵に描いてお話してくださいました。被爆者の平均年齢は82才を超えています。お二人のお話を傾聴し、後世に語り継いでいくために私たちに何ができるのかをあらためて考える機会となり、いっそう平和への想いを強くしました。



植松さん当時5歳
爆心地から4.1km

父は戦死。母と祖母、きょうだいの6人で暮らしていました。自宅の縁側で弟と遊んでいると、ものすごい爆風に襲われ一瞬のうちにござがめくれ上がって二人を包み裏のきび畑に吹き飛ばされました。障子やガラス戸、建具まで全部放り出されて…。当時は外で遊んでいたという放射線を浴びていることから「家の中で遊んでいたと言いなさい」と言われ、結婚して無事に子どもが産まれてから被爆者手帳をもらいました。祖母は玄関の硝子戸が背中に刺さり今は考えられないケガでしたが、病院には市内から焼けた人がいっぱいいて恥ずかしく思い帰ってきてしまいました。その後、今では考えられませんが、麻酔もない中で手術しました。小さな破片は最後まで取れませんでした。

登校の準備中に光が目にはパーンと飛び込んできて、防空壕へ駆け出そうと思った瞬間、今度はゴーっとそれはもう物凄い音がして気がつくと思いを失い家の下敷きになっていました。当時男の人は少なかったですが、母はつるはしを持った男の人を連れて来てくれて助け出されました。1歳半の弟は家具の隙間から這い出してきました。1年生の妹は学校が楽しく早く登校したため被爆し大火傷を負いました。優しく仲の良い妹でしたがウジがわいてこわいと思ってしまいました。終戦を迎え病気で寝ている妹に食べ物一つなく、近所の人には私たちに何もないと気づき、かぼちゃやら団子を一つ二つ置いて下さり、とてもありがたかったです。



綿崎さん当時10歳
爆心地から1.6km
国民学校5年生

参加者アンケートより

- 胸の痛むおはなしをしていただきありがとうございました。しかし、それを乗り越えて元気に活動されているご様子に感動しました。戦争をしたくない国に負けないよう平和を築いていきたいと思えます。(60代)
- 戦争はみんないやになります、「自分も被害者にも加害者にもなる」というのはいやなことだと思いました。まだ子どもだけ、未来にこのこわさを伝え続けてみんな幸せにしたいです。ありがとうございました。(10代)
- 思い出すのもつらいお話だと思いますが、お二人の話を聞いて平和な社会をしっかりと守り引き継いでいかなければならないという気持ちを強く感じました。(30代)
- 当たり前が核爆弾によって本当に一瞬にして奪われたことを聞き核の恐ろしさを感じた。苦しい体験を私たちに伝えてくれている意味をよく考え、今後は私たちが平和を守っていかなければと考えました。(20代)



◆8月6日(月)平和記念式典 平和記念公園にて

朝から強い日差しが照りつける中、平和記念式典に参列しました。今年の参列者は約5万人。犠牲者を悼む祈りを捧げ、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を参列者とともに願いました。

